



TITLE:

羊毛問題

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 羊毛問題. 經濟論叢 1917, 4(3): 423-432

ISSUE DATE:

1917-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127176>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

# 經濟論叢

第四卷 第三號

大正六年三月一日發行

## 論說

資本

文學博士

內田銀藏

植民地ノ分類ニ就キテ

法文學士

山本美越乃

支那經濟思想ノ出發點(一)

法文學士

小島祐馬

體質廢頽問題(三)

法學博士

財部靜治

經濟心理學ノ組織的研究(三)

法學博士

米田庄太郎

## 時事問題

取引所増資問題

法學博士

戸田海市

米獨斷交ト我經濟界

法學博士

小川郷太郎

毛羊問題

法學博士

神戸正雄

## 雜錄

經濟雜話(九)

法學博士

田島錦治

米國鐵道從業者八時間勞動問題

法學士

河田嗣郎

露西亞ノ國民經濟ニ於ケル歐洲的要素

法學士

米田庄太郎

維新後ノ戶數ト人口トノ關係

法學士

本庄榮治郎

あーのるど・といんびート經濟書

商學士

武藤長藏

佛蘭西財政及經濟學者ばーりゆー逝ク

法學博士

神戸正雄

新著紹介

# 羊毛問題

神戸 正雄

客臘英國政府ガ濠洲羊毛ヲ徵發シテ賣止メヲシタ。此ガ日本ノ羊毛工業者ノ一大打擊トナツタ。切角發達ノ氣運ニ向ツタ該業ニ頓挫ヲ被ラシメタ。是ニ對シテハ不取敢英國ニ交渉シテ解禁ヲ爲サシメナケレバナラヌガ、併シ問題ハ實ハ之ノミニテ眞ニ解決セラレナイ。別ニ根本的ノ攻究ヲモ要スルモノガアル。下ニ聊カ本問題ニ關スル事情ト對策トヲ叙說シヤウ。

## (第二) 事實

(一) 日本羊毛工業ノ發達 日本ノ毛織工業ハ既ニ戰爭以前ヨリシテモ發達シテ居ツタガ、特ニ戰時ニ入ツテヨリハ外品輸入ノ困難ト交戰國ニ對スル軍需品トシテノ新需要ノ發生トノ爲メニ非常ナル發達ヲ遂ケツツアツテ、其原料ハ大抵輸入ニ係リ、斯クテ斯業ノ發達ト共ニ原料輸入ノ増加ヲ見ルコトトナツタ。特ニ英國ノとつふ輸出禁止ハ我國ニとつふ製造業ヲモ勃興セシメテ、原料中ニテモ特ニ原毛ノ方ノ輸入ヲ著シク増加シタ。毛織工業ガ如何ナル步調ニテ發達シツツアルカ、其原料輸入ガ如何ニ増進シツツアルカハ次ノ表ニ依リ明デアル。

時事問題 羊毛問題

第四卷 (第三號 一四) 四二四

日本毛織物產額及輸出額 (交織物ヲ含ム)

	明治三年	明治四年	大正元年	二年	三年	四年
產額 (百萬圓)	一八、	三三、	三六、	三九、	四七、	一、一八、
輸出額 (千圓)	四九、	五九、	六九、	四七、	一、一八、	一、一八、

日本原毛、さつぷ及毛糸輸入額 (支那ヨリノ分ヲ除ク)

	大正二年	三年	四年	五年 (一月乃至十月)
脂付原毛 (俵)	三〇、〇〇〇	三三、〇〇〇	三六、〇〇〇	三九、〇〇〇
さつぷ (俵)	二四、〇〇〇	二七、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三三、〇〇〇
毛糸 (俵)	一五、〇〇〇	一八、〇〇〇	二一、〇〇〇	二四、〇〇〇
計	六九、〇〇〇	七九、〇〇〇	八七、〇〇〇	九六、〇〇〇

之ニヨツテ毛織工業ノ益々發達シツツアルコト、并ニ特ニ戰時ニ入リテさつぷ毛糸ノ輸入ノ減退ニ伴ヒ原毛ノ輸入ノ大増加ヲ知ルコトガ出來ル。而シテ昨大正五年中ニハ特ニ毛織機械并ニさつぷ製造機ノ据付ケラレタルモノガ多クアツタカラ、先ツ今日デハ日本ノ羊毛需要二十五萬俵ト概算サルルマデニ進デ居ル。

(二) 日本羊毛工業ノ原料

日本ノ羊毛工業ノ原料ハ現今主トシテ濠洲カラ得テ居ル。最近數ニ依レバ其需要額ノ九割三分マデカ濠洲カラ得ラレテ居ル。濠洲羊毛賣止メノ日本ノ羊毛工業ニ對スル打撃ノ如何ニ重大ナルカラ察スルニ足ル。試ミニ我國ノ輸入羊毛ノ產地ヲ類別シテ表示シヤウ。

日本原毛、さつぷ及毛糸輸入國別表 (單位、圓)

	大正元、二、三年平均	大正五年一月乃至五月
さつぷ	六九、八五、	九五、五、六、
其他	九、九、五、	一五、三、三、
支那	九、九、五、	一五、三、三、
關東州	一、	一、

英國  
濠洲  
其他

50,000担  
11,700担

10,000担  
1,000担

1,000担  
1,000担  
1,000担

計

10,116担

1,000担

1,000担

而シテ此大輸入ニ對シテハ日本内地ノ生産額ノ如キハ極メテ小額デ、殆ンドイフニ足ラス。即チ大正三年ニ六、九八三圓ニ過ギナイ。然ラバ何故ニ日本内地ニテ斯クモ小額シカ出來ナイカトイフニ、其ハ氣候風土ニ因ルノデ已ムヲ得ナイ。更ラニ然ラバ何故ニ日本ノ羊毛工業ガ濠洲毛ヲ多ク使フカトイヘバ、(1)一ニハ品質ノ關係ニ因ルノデアル。其ハ日本デハモスリンヲ多ク需要スルノニ、此ガめりの種ノ優等毛ヲ要シ、而シテ此ニハ濠洲毛最適當スル。是レ日本ニテ近隣ノ支那ノヲ多ク使フコトノ出來ザル所以デアリ、南阿ヤあるせんちんノデモ思ハシクナイトイフ所以デアル。尤モ羅紗ヤ毛布ナドニハくろすぶれつと種ノ劣等毛デ良ク、随ツテ必スシモ濠洲毛ニ限ツタ譯デナイノニ、濠洲毛ヲ多ク使ツテ、他ヲ顧ミナイトイフノニハ尙ホ日本ノ技術ノ發達度ノ幼稚ナルニモ因ルトイハナケレバナラス。(2)一ニハ又距離ノ關係ニ因ル。此點ヨリ濠洲産毛ガ南阿あるせんちん産ヨリモ選マルル。即チ濠洲ガ日本ノ必要トスル種類ノ羊毛ヲ最近クニテ供スルトイフノデアル。距離ノミヨリイヘバ支那ノ方ガ濠洲ヨリモ近クデハアルガ、支那ニハ不幸ニシテ日本ノ必要トスルヤウナ品質ノモノヲ持ツテ居ラストイフノデアル。併シ支那ニモ羅紗ヤ毛布ノ原料ニナルヤウナ劣等毛ナレバ相當ニ豐富ニアツテ、而シテ夫ノ軍需品タル毛織物ノ原料トシテハ此ニテ十分デアル。畢竟支那毛ノ日本ニテ多ク使ハレナイノハ技術ニ因ルコトガ少クナイ。

決シテ日本ノ需要品ノ關係バカリデハナイ。今日支那毛ハ最多ク米國ニ輸出サルル。支那毛ノ全輸出額ノ八割九分ハ米國向デアル。日本ヘハ僅ニ其ノ全輸出ノ四分ニ止マル。

## (第二) 重 要

此羊毛問題ガ如何ニ重要ナルカラ見ルノニ、(1)凡ソ正當ナル事業デアレバ何業タルヲ問ハズ、其ノ益々發達シツツアリ、發達ノ氣運ニ向ツテ居ルトイフ以上ハ、之ヲ助成シテ、其妨害原因ヲ排除スルノガ國策上、經濟政策上得策ナルハイフヲ待タナイ。(2)ガ特ニ此羊毛工業ハ一ノ纖維工業デ、即チ日本ノ最重要工業タル纖維工業ニ屬スルモノデアルカラ、日本及日本人ニハ適當ナル事業トイフコトガ出來、日本ノ他ノ纖維工業即チ絹及綿工業ト相並ンデ、相關聯シテ發達シ得ルモノナルコトヲ想像スルコトガ出來ル。隨フテ切角之ガ發達ヲ助成スヘキデアル。平生ナレバ之ヲ補助シテモ先進國トノ競争ガ困難デ、到底十分ナル發達モ出來ナイカモ知レヌガ、幸ヒ戦争トナツテ外國競争ノ少クナツタ事デアルカラ、此機ニ乗ジテ助長スレバ成功ノ見込モ多ク、之ヲ助成スルノ策ヲ講ズルコトガ最肝要デアル。特ニ又(3)需要カライフテモ我國民ノ文化及經濟ノ程度ノ向上スルニ隨ツテ益々毛製品ノ需要ヲ増加スルノ傾ガアリ、益々此ガ一般的ノ且ツ必要のナ需要品トナル。之ガ供給事業ヲ助長スルコトハ社會政策上カラシテモ重要デアル。(4)特ニ又毛製品ガ一ノ軍需品デモアルカラ、其工業ガ兵器工業ニ次イデ、又ハ之ト相待ツテ國防上保護ヲ要スル重要工業タルコトヲモ看過シテハナラス。此アルガ故ニ國家ハ平時此事業ヲ出來ルタケ保護シテ、

其產物ヲ豐富ナラシメ、外國ニモ輸出スルノ餘力アラシメ、一朝戰時トナレバ、全能力ヲ軍需ニ向ケシムルコトトスヘキモノデアル。而シテ今ヤ此工業ノ原料ガ英國ノ濠洲羊毛賣止ニヨツテ供給ヲ斷タレ、其工業ノ發達ガ抑制サレントスルニ於テハ、國家モ特段ナル注意ヲ拂ヒ、適當ナル方策ヲ講シナケレハナルマイ。

### (第三) 對 策

#### (一) 當面ノ方策

(A) 對英交渉 本問題ノ當面ノ方策トシテハ先ツ英國ト交渉シテ、我當業者ノ必要トスルタケノ分量及品質ノ原料ヲ分與セシムルニ在ル。然ラバ(イ)我當業者ノ必要トスル羊毛額如何トイフニ、我當業者ノ現年度ニ既ニ買付ケタルモノ原毛ニテ四萬俵とつふニテ四萬俵計八萬俵バカリアル。之ニ前年度ノ持越ヲ假リニ三萬俵ト見積ツテ十一萬俵、此丈ケガ我當業者ノ支配ニ屬スルノニ、我全需要額ハ前ニモイフ如ク二十五萬俵デアルカラ、要スルニ十四萬俵ノ不足ヲ見ル。(ロ)然ルニ此位ノ額ハ英國トシテ必スシモ我ニ供給シ得ナイ程ノコトハナイ。濠洲羊毛ハ年產額二百萬俵、輸出百五十萬俵デアルガ、今日八十萬俵ガ英國政府ノ徵發ニ應ジテ賣止メセラレテ居ルトイフ。而シテ此中ニ英國政府ノ眞ニ需要スルモノハ四十萬俵デアラウトイフ説ガアル。然ラバ之ヲ夫ノ八十萬俵ヨリ引去リタル殘ガ四十萬俵アツテ、日本ノ必要トスル十四萬俵ニ至テハ優ニ供給シ得ル譯デアル。更ニ進デ考フルニ、英國ノ需要ハ戰前ニハ年百六十萬俵デ、之ニ對シ英國產四十萬俵、

濠洲產六十萬俵、南阿及其他產六十萬俵ヲ以テ充タシタ。今戰時ニ入ツテ兵員五百萬人ニハ平時ヨリモ多クノ衣服ヲ要シ、其ノ爲メニ生ズル羊毛需要ノ増加度ヲ平時ノ倍ト見積リ、彼等ガ青年男子デアルカラ、一般平均人ノ倍ノ需要ガ平時ニモアルモノト見ルト、此兵員ノ爲メノ羊毛ノ需要ノ増加ハ略ホ平時ノ全需要ノ四分一位デアラウト推算セラルル。然ルトキハ矢張り四十萬俵ノ需要増加トナリ、既ニ英國ガ其平年ノ濠洲毛需要ノ六十萬俵ヲ買付ケタトシテ、尙四十萬俵ヲ要スルコトニナル。恰モ前ノ四十萬俵英國政府必要説ニ一致スル。或ハ夫ノ説モ斯カル計算ノ結果ニ基クノデハナカラウカ。若モ此計算ヲ正シトスレバ、日本ノ需要毛ハ英國ヨリ供給サル餘裕アル譯デアル。勿論英國ガ此外佛露ニ軍需品トシテ供給スヘキ毛織物ノ材料トシテ、又ハ佛國ノ毛織物工業ノ原料トシテ羊毛ヲ要スルデアラウカ、其等ハ日本モ聯合與國ノ一員デアリ、露國ヘノ軍需品供給ニ當ツテ居ル以上、日本ノ需要毛ト對等ニ取扱ハルヘキモノデアラウ。(ハ)而シテ英國ガ夫ノ賣止メラシタ趣意ハ、之ニヨリテ軍需材料ノ供給ヲ確實ニスルノト、及之ニヨリテ其價格ノ上騰ヲ抑制スルノトニアルノデ、濠洲人カライヘバ寧ロ苦痛トシ不利トスル所デハアル。或ハ日本等ノ毛織工業ノ發達ヲ妨ゲテヤラウトイフヤウナ考ガナイトモイヘナイガ、正面ノ理由トハナシナイ。彼ニ餘裕アル以上ハ、相當日本ニ分與スルノ義務ガアル。(ニ)然ラバ之ニ對シテ日本ガ抗議スルノニ如何ナル理由ヲ以テスルカトイフニ、(1)第一ニハ日英同盟ノ誼ニ訴フルハ勿論、更ニ特ニ巴里決議ノ天然資源ヲ與國ニ共用セシムル趣意ニ基キテ分與ヲ迫ラナケレバナラヌ。日本ノ巴里決議ヲ賛成シタル最主要ナル理由ガ此天然資源ノ共用ニアルノニ、之ヲ塞ギ止メララル



ヤウデハ、日本トシテハ之ヲ賛成シ之ガ爲メニ犧牲ヲ拂フ値ガナクナル。是非トモ此點カラシテ抗議シナケレバナラス。(2)更ニ此原料ヲ以テ露國ノ軍需品ノ製造ニ當ルコトヲ斟酌シテ、日本ノ爲メニ特ニ分與スヘキコトヲ迫ラナケレバナラス。(3)此等ト關聯シテハ日本ハ之ガ輸送ノ船舶ニツキテモ彼ノ迷惑ヲ加エザルコト、代金ノ支拂ニツキテモ英國ノ爲替上ノ利便ヲ計ルコト勿論デアル。

(B)他國ヨリノ買付實行 右對英交渉モ固ヨリ必要デハアルガ、之ノミニ依頼シテハ、英國ノ腰ヲ強カラシムルノミニテ、日本ノ要求ガ通り惡クナル。彼ハ日本ニ分與スル餘裕ヲ有シツツモ、何トカ引張ツテ置イテ、日本ノ工業ノ發達ヲ妨ゲヤウ、少クトモ出來ルタケ高イ値デ賣付ケヤウトスルデアラウ。デ此際迅速ニ他ノ國々ヘ往ツテ羊毛ヲ買求メ來ルヘキデアル。此ガ英國ニ對スル我ノ抗議我ノ要求ニツイテ彼ヲ牽制スル所以デアル。實際ニハ既ニ若干ノ南阿羊毛ガ日本ニ入り來リツツアル。又既ニあるせんちんニモ買付ケニ人ガ廻ハツテ居ル。

(二)永遠ノ方策 右ノ如クニシテ此問題ガ一應解決スルニシテモ、原料供給問題ノ永遠ノ解決ハ未ダシデアル。成程日本ハ巴里決議ニ賛成シテ、戰後ニ亘ツテモ羊毛ノ供給ヲ保障サレタ筈デアルガ、此決議ノ實行モ仲々困難デ、果シテ正確ニ行ハルルヤ、何時中絶スルカモ知レナイ。何時復タ濠洲羊毛ノ日本ニ來ルコトガ困難ニセラルルカ知レナイ。少シモ油斷ハナラス。デ永遠ノ策トシテ羊毛ヲ出來ルダケ廣ク各方面ヨリ得ルコトトシナケレバナラス。サウシテ價ケバ英國又ハ濠洲ヲ牽制スルコトニモナリ、彼等ヲシテ濠洲毛ヲ日本ニ入ルルコトニ妨害ヲ加エザラシムル

コトトナル。今日ノ如ク日本ガ濠洲毛ニ偏倚スルノハ最危險デアル。諸多ノ地方ノ羊毛ヲ入レテ、此危險ヲ分散スルコトヲ計ラナケレバナラス。

(A) 内地及殖民地 第一ノ原料供給候補地ハ内地デアラウガ、此ハ前ニモ一言セル如ク、今日日本ノ羊毛産額僅ニ一萬圓ニモ足ラザル所デ、綿羊ノ存在頭數カライフテモ大正二年ニ二千七百七十一頭ニ過ギナイ。此ガ飼養ハ既ニ明治八年ヨリ政府ノ獎勵シタ所ナルニ拘ラズ、成績不良テ、段々衰成續ヲ擧ケツツアルトモイフガ、所詮氣候風土ガ之ニ適シナイ。日本人ノ人的性質モ牧羊ニハ適シナイ。強テ不適當ナモノヲ爲スヨリハ、日本人ノ生活ニ一層重要デアリ、而モ日本ノ土地ニ適當シ、多年ノ經驗ヲモ有ツ所ノ米穀作ニ從事シ、之ニ土地ヲ利用スル方ガ適當ト思ハル。日本ノ領土内デ牧羊ニ適當ナル處ヲ求ムレバ朝鮮位デアラウガ、此地ニモ今日見ルヘキノ牧羊ハナク、此カラ其處ニ手初メスルトスレバ、其處ニ既ニ發達シタル牧羊ヲ衰ヘシムルニトニナルガ、牧羊モ日本ニ取リテ重要デアリ、牧羊ガ牧羊ヨリモ一層此地ニ適當ナルコトノ明カデナイ以上ハ、未ダ卒カニ此處ニ牧羊ヲ奨ムル譯ニハ往カナイ。内地朝鮮トモ追々ニ牧羊ノ多少ノ發達ハ見ルデアラウガ、多キヲ期待スルコトハ出來ナイ。

(B) 支那 然ルニ蒙古ヲ初メトシテ支那ニハ古クヨリ牧羊ガ行ハレ、相當ノ產額モアル。其產額ハ年三千五百萬斤ニモ達スル。(之ニ對シテ日本ノ大正元ニ三年平均年輸入額一千六百萬斤)故ニ之ヲ我手ニ入ルレバ餘程好都合デアル。今日ハ前ニモイフ如ク支那輸出毛ノ八割九分モガ米國ニ取ラレテ居ルガ、此ハ寧ロ日本ニ取リ來ルヘキモノデアル。唯ダ此羊毛ハ品質劣等デ粗硬デ死

毛多ク且ツ收毛量モ少イトイフカラ、外國毛トノ混毛ニヨリテ利用スルノ外ナイカモ知レヌ。今日日本ニハ之ヲ多ク利用スルダケノ技術ガ進ンデ居ラヌガ、既ニ綿糸紡績ニ於テ、日本ノ工業ガ印度ノ劣等綿花ニ他國ノ優等綿ヲ混綿シテ巧ミニ割合ニ優良ナル糸ヲ製出シテ居ル所カラ見テモ、少シク勉強シ工夫スレバ此混毛ノ成功セヌ筈ハナイ。斯ノ如クニシテ一方ニ製造上ノ技術ヲ改良スルガ、他方ニハ又支那特ニ蒙古羊ノ改良事業ヲ日本人ノ手ニヨリ徹底的ニ行フテ、益々我要求スル如キ優良毛ヲ生産セシムルコトトシナケレバナラス。然ラザル以上ハ日本ノ主要ナル需要タルもすりんノ材料ヲ得ルコトガ出來ナイデアラウ。併シ軍需用ノ原料タルヘキ羊毛トシテハ支那産ニシテ依ルヘキモノガ多カラウカラ、ソシテ支那ハ日本ニ近ク且ツ日本ノ勢力ノ最良ク及ビ得ル處デアルカラ、國防上ノ觀點カラハ最多ク支那産毛ニ注意シ、益々之ガ利用ヲ計ラナケレバナラス。

(C) 其他ノ外國 右イフ如ク日本ハ支那毛ノ利用ニ意ヲ用ユベキデハアルガ、其牧羊ノ改良トイフテモ又其産毛ノ混用技術ノ發達トイフテモ、一朝一夕ノコトデナイカラ、矢張り尙ホ他ノ國ノヲモ用ユルコトトナラナケレバナラス。特ニ支那ニ於ケル牧羊ノ改良モ程度問題デ、氣候風土ノ關係カラ、到底濠洲産毛ノ如キ上等ノモノヲ生産スルコトハ出來難イトイフコトモアルカラ、所詮支那毛ハ永ク精々混毛ニ使ハルノ外ナイカモ知レヌ。デ勢ヒ此點カラシテモ他ノ國々ノヲ入レナケレバナラスコトトナル。試ミニ世界ノ主要羊毛産國ヲ擧ゲ其産額ヲ見ルト、(一九一一年新西蘭年報)

時事問題 羊毛問題

第四卷 (第三號 一二三) 四三二

濠洲	21,000,000 封度 (三二〇封度ガ)	新西蘭	22,000,000
あるぜんちん	2,000,000	英國	1,000,000
露國	10,000,000	其他	22,000,000
米國	21,000,000	計	22,000,000

デアアルカラ、日本トシテハ南米、露國、新西蘭、南阿等トノ取引上ノ連絡ヲ開クコトガ肝要デア  
ル。濠洲航路ヲ新西蘭ニ延長シ、新ニ南米及南阿航路ヲ開設スルコトガ羊毛問題ノ解決トシテモ  
重要トナル。更ラニ此等ノ地ヨリ得タル比較の劣等毛ヲ利用スル所ノ技術上ノ攻究モ亦タ怠テハ  
ナラヌ。

\* \* \* \* \*

(附説)

本文稿了ノ後、新聞紙ハ英國ガ佛國ニ向ツテくるすぶれつと種ニ限リ解禁シタコトヲ傳エテ居ル。之ト同時ニ既ニ佛國ニ許シタ  
以上、日本ニモ許サヌ答ハナシ、多分日本ニモ許シテ吳レルデアラウトイフ樂觀的ノ想像ヲ附記シテ居ルガ、其想像ノ當レリヤニ  
就イテハ、予ハ寧ロ疑ナシ置クモノデアアル。此戰時ニ入ツテヨリ、種々ノ問題ニツキ英國ガ最打解ケテ協議ヲ遂ゲツアル所ノ佛  
國ニ對シテ、漸ク軍需關係カラ最切要ト認メラルルくるすぶれつと種ニ限ツテ解禁シタトイフ以上ハ、幾ラカ疎外セラレテ居ル  
所ノ日本ニ對シ、凡ベテノ種類ノ羊毛ノ輸出ヲ解禁シテ吳レルトハ想像シ得ラレナイ。矢張り精々日本ニモくるすぶれつと位ヲ  
許スノガ落デアラウ。其モ日本ノ主張スル正面ノ理由ニ聽イテ之ヲ許ソノデハナク、何か特ニ彼ナリスルガ如キ問題ト交換的ニ  
許スノデアラウ。夫ノ莫大小解禁ノ如キモ多分我國ノ巴里決議賛成トノ引換デアツタデアラウ。其カラ推シテ斯ク想像スルノガ  
至當デ、其交換材料ハ今度ノ英國ノ公債募集ニ於ケル日本財務官ノ日本公債買上ニ依ル援助デアラウト思ハル。又日本トシテ  
モ速ニ之ヲ利用スヘキデアアル。本問題解決ノ樂觀的根據ハ唯々茲處ニ在ルノミデアアル。而モ尙ホ此ニ今一ノ心配ハ原毛ハ出サヌ。  
こつぶダケヲ分與シヤウトイフ風ニシテ解禁トナル事デアアル、併シ日本ハ最早こつぶハ自分テ出來ル城ニ達シテ居ル。是非トモ  
原毛ノ分與ヲ要求シナケレバナラヌ。